

令和3年度第3回岡山市総合教育会議

日時：令和4年2月8日（火）

場所：市庁舎 第3会議室

午後3時30分 開会

○司会 定刻となりましたので、ただいまから令和3年度第3回岡山市総合教育会議を開催いたします。

本日は、河内委員、上西委員がご欠席です。

傍聴の希望がありましたら、入室を許可してよろしいでしょうか。

○市長 よろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○市長 では、そのように取り計らってください。

○司会 はい。それでは、協議事項に移らせていただきます。

議事の進行は、招集権者である市長にお願いしたいと存じます。市長、よろしくお願いたします。

○市長 はい。今日は教育委員の方、2人が急遽欠席ということになりまして、大変申し訳ありませんが、お二人で活発な意見を言っていただければというように思います。

それで、私が16時前後から少しの間失礼させていただきますので、その間、代わりに教育長に司会のほうをお願いしたいと思います。

それでは、次第に沿って議事を進めます。

本日は、大綱に示した、目指すべき子どもの姿に必要な5つの力を測る4つの指標についての分析と今後の取組、5つの力を育むための学校における取組事例について報告いただき、それらを踏まえて今後の課題、取組の方向性などについて議論していきたいと思えます。

前回に引き続きまして、岡山市中学校長会の三木会長、そして小学校長会の山本会長にもご出席をいただいております。お二人からも学校現場における変化、取組、ご提案など、幅広いご意見をいただければと思います。

それでは、資料1につきまして、教育長から説明をお願いいたします。

○教育長 はい。本日は、「教育大綱が目指す子どもの育成に向けた取組状況」、これをテーマにいただきまして、ありがとうございます。前回の総合教育会議では、本日の

資料の最後につけております参考資料、これをもとに岡山市が目指す子どもを育む基礎としての2つの目標、「全国平均レベル以上の学力」、そして「新規不登校児童生徒の減少」について取り上げていただきました。その中で、全国平均レベル以上の学力が身に付いた反面、自分の考えを表現したり理由を説明したりする力が不十分であるということや、そのために必要な取組について議論をしていただいたところでございます。

今日は、岡山市が目指す子どもの育成に向けた取組状況等について、資料1をもとにご説明をいたします。

教育大綱では、予測が困難な社会にあって、子どもたち一人一人がそれぞれの立場で社会に貢献し、自他の幸せを創造できるようになるため、自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子どもということを目指しております。そして、そのために必要な活用力、表現力、向上心、社会性、人権尊重の精神の5つの力を子どもに育むため、教育委員会と学校が一体となって取り組んでいるところであります。これらの状況につきまして、4つの定量的な指標の状況と関連させながら説明をいたします。

資料の左側に4つの指標を入れておりますので、ご覧ください。

1つ目の自分の考えを整理して伝えることができる児童生徒の増加については、記述式問題の正答率の対全国比が小・中学校ともに、ほぼ全国平均レベルとなっております。各学校における授業改善の進展が着実に子どもの力の育成につながっていると考えてもよいのではと思っております。

2つ目の情報を収集し、考えをまとめて発表している児童生徒の増加につきましては、探究的な学習をしていると感じる児童生徒の割合が小・中学校ともに増加しております。学校では、自分で課題を立てて、情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの探究的な学習過程や議論し合う活動を取り入れた授業に取り組んでおります。それらは特に中学生の実感につながっていると考えています。

これら2つの結果から、さらに充実が必要と考える取組を資料右下に示しています。

1つ目は、子どもが自分の考えを表現したり、理由を説明したりする学習活動であります。2つ目は、情報活用能力育成に向けた、1人1台端末を使った9年間の系統的な指導であります。岡山市がこれまで大切にしている小学校の学びを中学校の学びにつなげる系統的な指導を中学校区ごとの子どもの実態に応じて進めてまいりたいと考えております。

3つ目の協力しようとする児童生徒の増加につきましては、協力して取り組んだことが

うれしいと感じる児童生徒の割合が小・中学校ともに増加しています。なお、質問の言葉が「うれしい」から「楽しい」と変わっており、単純に比較はできないため、あくまで参考となります。学校では、子ども一人一人の気持ちに寄り添いながら、集団や個人への働きかけの充実を図ってまいりました。また、コロナ禍で学習活動の制限がある中、活動の目的をはっきりさせながら、子ども同士が豊かに関わることができる取組を工夫して進めてまいりました。こういった取組が子どもたちの意識につながっているのではと考えております。

4つ目の人を大切にできる児童生徒の増加につきましては、人が困っているときに進んで助けると考える児童生徒の割合が高い水準で推移しております。児童生徒の心情面は育っていると考えられますが、行動につながっていないこと、また自分が行動したことが人の助けになっているといった自覚につながっていないという可能性があり、育んだ気持ちを子どもの実感につなげる取組がさらに必要だと考えております。

4月当初、学校にはボトムアップの形で先生方の主体的な取組にしてほしいということをお伝えしました。そして、各学校の校長先生を中心に大綱の趣旨をしっかりと理解しながら、学校の特色に応じた取組が進んでおります。学校での工夫などの具体的な事例については、この後お二人の校長会会長から紹介をしていただきます。今後も引き続き、学校と一体となって「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども」の育成に向けて努めてまいります。

以上です。

○市長 ありがとうございました。

引き続き、中学校における取組について、三木会長から説明をお願いいたします。

○三木中学校長会長 はい。中学校長会の三木と申します。本日はよろしく申し上げます。

資料2に沿いまして、中学校の取組を紹介させていただきます。

まず、校長会として、年度初めに全教職員に対して第2期教育大綱についての周知を各校で図ることを校長間で確認をいたしました。また、各校長が自校の取組と5つの力の育成を効果的につなげ、的確に校内で指導助言ができるよう研修の時間を設けるなどして、大綱の浸透を図ってきました。また、各校でICTやChromebookを活用した取組について、成果や課題を中心に情報交換を重ねてきました。そういった中で、今年度の具体的な取組を紹介していきます。

ここでは2つの取組を紹介させていただきますが、その背景としまして学習指導要領の改訂を踏まえ、ここ数年前から各校の校内研修で「主体的・対話的で深い学び」等を多く取り上げていくようになり、教員の授業改善に向けた意識が高まる中で、さらに第2期教育大綱が示されたり、それからICTの導入などが重なったりしたことで、教員が授業の見直しを一層意識するようになりました。こうした背景の中で今年度の取組としまして、そこに挙げさせていただいておりますが、まず1つ目の事例として、郷土理解学習、これは自分たちの身近な地域の文化や歴史に関心を持たせ、郷土愛を育てていくといった大きな目的があります。

この取組の中での特色ある工夫としまして、朝読書の時間を活用しています。それからさらには、その朝読書は約10分間程度ですが、その中での読み物教材を学校で教員の中で作成したものを使っているということです。と同時に、10分ほどで読み通すことができる教材の最後に、その内容の中でこの部分はなぜなんだろうか、どうしてなんだろうかというような簡単な問いを設定しています。このことで、生徒たちも、ああ、確かにそれはどういったことなのかなというふうな探究を促すような仕掛けをしているということです。

そうした中で、もっと学びたいというような興味や関心を生徒たちが抱くようになってきます。そうした気持ちを総合的な学習の時間につなげていくということです。総合的な学習の時間では、ICTを活用し、Chromebookを活用し、幅広い情報に触れながら自分の考えや思いをまとめていくといった、そういった流れになっています。この取組は、個に応じた指導であり、また学習の個性化に迫る取組でもあります。ここでは5つの力の中で、この学校ではですが、活用力、それから向上心、それからさらには表現力、こういった力をねらっているものになります。

2つ目の事例としまして、SDGsを通した探究的な学び、これは防災、それから環境保全、人権など、自分たちの生活に直結するようなテーマを設定しているものです。

この取組の中での特色ある工夫としましては、生徒会活動をベースとした生徒の主体性を生かしているということです。これを総合的な学習の時間につなげたものです。

具体的には、オンラインで外部人材と交流することで幅広く専門性に触れ、自分の価値観や視野を広げていくといったねらいがあります。外部人材としては、国連大学高等研究所とのやり取りを生徒が直接行うことにより、まずSDGsの基本的な考え方、SDGsそのものに対する理解を生徒たちが深めていくといったねらいで、これも外の世界との

交流の中で新鮮に子どもたちが受け入れていったというふうには報告を受けております。

さらには、そこでいろいろなことを調べながら、生徒たちが主体的に学年全体でのシンポジウムを通して、おのおの自分の思いや考えを自分よがりでは終わらせず、自分たちの共通のまとめに発展させることで、SDGsとしてのねらいを高めているという取組であります。この取組の中では、活用力、表現力、人権尊重の精神、また社会性、こういった力をつけていくことをねらいとしているものです。

このように各校がその実態等に応じ、目指す5つの力のウエイトを考える。つまり5つの力に向けてただ満遍なく取り組ませるのでなくて、それぞれの学校の生徒の実態に応じながら、5つの力の中で、まずはどれかなといったような、そういった調整を施しながら、さらに大綱に示された4つの指標をもとに、その指標項目の表現を各校のねらいにフィットするようにアレンジしながら進めているところです。

指標項目の中でのキーワードとして多くの学校が取り上げているものが、例えば活用力でありますと、情報であったり、Chromebook、友達の意見、こういった言葉が多くの学校で使われているようです。それから、向上心では、目標、夢、計画、こういった言葉がキーワードとして多く使われておりました。

最後に、来年度の重点としてですが、先ほど紹介をさせていただきました、また教育長さんのほうからご説明がありました探究心の部分も含めまして、これを学ぶ場として総合的な学習の時間を中心に進められてきていました。この総合的な学習の時間は、各教科で学んだ知識等を横断的に生かしながらという取組でもあります。そのことによって、さらに深い探究心へとつないでいくものですが、そういった中で調査の結果から見ても、生徒たちの実感として探究心を育てる場といった実感が表れてきております。

生徒たちのこの意識を今度は逆に、総合的な学習の時間で身に付けた、こういった探究の意識を今度は逆方向に教科の中で横断的にさらに生かしていくというようなことが、これからさらに大事になってくるのかなと。つまり教科の授業改善の中で、培われてきている探究心をさらに深めていく。このことが個に応じた指導であったり、学習の個性化にもつながる部分で、まさに教科の深みの部分に入ってくるころかなというふうにご考えております。こういった相乗効果をねらうような、今までの取組を踏まえた上でのさらなる発展につなげていけたらなというふうなことが今後の重点課題かなというふうに思っているところです。

以上、簡単ですが、中学校からは終わります。

○市長 ありがとうございます。

それでは、小学校長会の山本会長からお願いいたします。

○山本小学校長会長 はい、失礼いたします。小学校長会の山本でございます。

同じようなつくりになっているかと思います。1番としては、校長会としての取組ですけれども、まず校長のほうの研修で、しっかりと大綱や5つの力についての理解を深めておく必要があるだろうということで、教育委員会の事務局のほうとも連携をしながら校長会の場で研修をしております。何を大切に、この教育大綱が成立しているのかとか、なぜ5つの力なのかといったあたりのことを基にしながら研修を深めました。それから、校長会の中にも教育課程委員会のような、今回でいいますとこの教育大綱、5つの力を反映させていくことを研究をする委員会がございますので、そちらのほうでも各校の取組等を集めて、他の先生方にも広げるといふような形での研修を進めています。

それから、2つ目の項目として、校長会のほうでの情報交換、これをしっかりとしよう。特に他校の取組がどのようになっているのかということ共有していくことが大事だろうということで、全ての校長が見られるような形で情報共有のためのシートを作りました。アクセスすることで、どのような取組が進んでいるのかということが一目で分かるということで、多くの学校で指導の重点に反映させるためにどうしたらいいとか、学校教育目標はどうなっていくのいいのかとかというふうな自校の課題をどこに持っていこうかなということでは使えたかなと思っています。

それを前提としながら、各校で進めてきた取組について紹介をさせていただきます。

1つは、それぞれの学校、本当に独自の取組を進めています。といいますのが、各校でも研修をして教育大綱や5つの力について周知はするのですけれども、具体的に、ではどんな姿を自分たちの学校では子どもに求めているのかという、そういった具体的な作業を通して理解が深まるということと、教育課程の中でどのような活動を位置づけることに意味があるのか。もっと具体的に言うと、授業の中でどのような声かけが要るのかとか、何を評価してやればいいのかといったことが実際には必要になってくるだろうということで、具体的に学校で考えたり、つくり上げたりするという作業を行っている学校が多いなということを感じています。

1つ目は、こういった力を育てていく上で土俵として非常に使いやすい生活科、総合的な学習の時間に焦点を当てて、では5つの力を発揮した子ども、発達段階ごとでどのような姿が見えてくるのか、自分たちはどのような姿を期待するのかということを表にまとめ

る。そうすることで実際の指導の場面では、ではどのような手だてが必要なのかということころまでを考えている取組が1つ目です。

2つ目は、教科学習、ここに焦点を当てて、特に活用力・表現力との関係の中で、それでは教科でどのような具体的な力を身につけていくことが実は活用力・表現力につながっていくのかということをはっきりとしようとした取組もあります。例えば、5年生の社会科なんかで、資料を根拠にしながら考えをつくるといったようなことが実は活用力につながっていくだろうと。したがって、教科の学習の中でどこに力を入れていくのが必要なのか、こういったことが学校の中で共有できていくということです。

3つ目として、学校自己評価の評価項目と5つの力との関連をそれぞれの担当者からボトムアップの形で考えてみようということで投げかけた学校があります。それぞれの校務分掌に沿って、必要な評価指標が今だけでは不十分であれば、新しい評価指標を何かしら位置づけようとか、今まで評価してきたものの捉え方を少し変えることで5つの力が身に付いていくかどうか、このことに評価が使えるのではないかと。学校自己評価全体の見直しにかかっているという状況です。具体的に評価指標を考えることで、実際の取組のほうに戻していくというふうなことができているというふうに教えていただいています。

4つ目として、学校として、それぞれの学校がどのようにその5つの力をイメージするのかということです。具体的に言うと、活用力を発揮している子どもは、例えば1年生ではどのような姿が見えるのか。6年生に至るまでに、どのような段階を踏みながら育っているのか。各教科の中での姿、日常生活の中での姿のあたりを洗い出しながら学校のほうで共有、子どもの姿のイメージの共有を図るということで、具体化しているという事例です。

最後、それまでずっと引き継がれてきていた縦割り活動ですけれども、この目的は何なのかということを変更して見直しをかけたときに、ここでは5つの力の中の社会性に焦点を当てられそうだと。実際には田植えをしたり稲刈りをしたりするんですけれども、どこに焦点を当てて目的を設定するのかによって随分と価値が変わってくるだろうと。じゃあ、何で社会性なのかといったときには、異学年の中で相談をすとか協力をすとかというふうな場面が位置づけられる。そうすると、その中で社会性につながる大切なものが育っていくのではないかとというふうな、今までやってきたものをきちんと位置づけるというふうなことをしています。それによって具体化して、何にどう関わっていくのか。先生方も一人一人の子どもにどのような声かけができるのか。そこまで具体化できるような取組を

多くの学校が今進めているところです。

最後になりますけれども、そういった活動を実際に進めていく上での課題の部分、これから取り組んでいかなければならない部分についてお話をさせてください。

1つは、特に力になり得るであろう探究的な学習の授業をどのように構想していくのが効果的なのか。この情報共有はこれから進めていく必要があるだろうなというふうに思っています。それから、そういった学習を進めていく上で、大きな、子どもたちにとってツールになるICTの活用をさらに積極的に進めていく。その効果的な活用についての情報共有も大事になっていくだろうと。

ただ、ここについては、逆の意味もありまして、例えばChromebookを使わないといけない場面、必要な場面と、むしろ直接体験であるとか人と関わること自体が大事、人から情報を得るにはどうしたらいいとか、実地の見学であるとか、人にインタビューをするといったような、それまでも大事にされていた部分ですけれども、5つの力の何を育てるかによって、吟味をかけていくということが大事だろうと。特に小学校段階では、そこを大事にしなければ、育てるべきものが育っていかないだろうというふうなことも話されています。

最後になりますけれども、実はこれが一番大きな課題かなと思っています。先ほどから説明をさせていただいたことを実際に行っていく教員、この人材育成であるとか力量向上であるとか、こういったところが外せない課題だなというふうに感じています。声かけ一つできると身に付けるものが変わってくるでしょうし、子どもの成長をどのように見とれるのかという力自体で評価できることが変わってくるだろうということで、こういった一人一人の力量向上、特に若い先生が増えている中で、ここについては大事にしていきたいなということをしかりと話をしているところです。

以上、説明のほうを終わらせていただきます。

○市長 どうもありがとうございました。

中学校長会そして小学校長会、様々な議論をしながら模索をさせていただいているというのが現状なのかなというように思います。

それではまず、教育委員の方から意見をいただいて、ディスカッションに入りたいと思います。まず、片山さんからよろしいですか。

○片山教育委員 はい、失礼いたします。ありがとうございました。今年度は本当にできるだけ教育を止めないということで、子どもたちが学校に行く機会というのをできるだけ

保障していただいて、最大限の感染対策をしていただきながら学ぶ場を確保していただいたということ、本当に保護者の一人としても感謝の気持ちでいっぱいです。その中で、大綱が目指す子ども像、あるいは育むべき5つの力ということで、様々な取組をなさっているということを今伺って、非常にありがたいなということと、どんどんこれが活性化していくことを願ってやまないところです。

私のほうからは1点、幾つかお尋ねしたいことがあるんですけども、まず1つ目として、先ほどから小学校・中学校の校長会の校長先生もおっしゃっていた総合的な学習の時間ということなんですけれども、うちの子どもたちも総合的な時間というのはすごく楽しみにして、体験的な活動がいろいろなされる中で、例えばこういったことというのは地域へ出ていくことであったり、友達といろいろChromebook等を使いながら、いろいろ探究しながら一緒に何かを発見していくとか、そういった何かすごく主体的な学びにつながる、すごくありがたい機会なんですけれども、例えばもう一番うちの子どもががっかりしたのが職場体験です。

今子どもたちが夢がなかなか持てないとか将来に明るい期待が持てないとか、そういったことも課題になっている中で、実際自分がやってみたいことというのを現場の方にうかがえるとか体験できるというのは、すごく大きい期待感と楽しみを持っていたんですけども、そういったことがこのコロナ禍で閉ざされてしまったというか、遮られてしまった。こういったことに関してすごく残念だなと思うところです。

ただ、残念ながら、これはもう仕方がないことなので、じゃあこういったこと、できにくい体験的な学びを何で補完していけるんだろうかというところで、先ほどご提示くださった国連の方との直接的なつながりだとか、そういったオンラインによって日頃だったら出会えない人と画面越しでありながら出会えたということは、とってもありがたいことなんでしょうと思うんですけども、そういった取組も含めて、何かそういった総合的な学習の時間というのが十分体験につながらない部分をどんなふうに今工夫していただいているのか、そういったところがまずお聞きできたらありがたいなと思います。

以上です。

○市長 なかなか補完といっても難しい面があると思いますが、教育長、校長さん方、またこれは教育委員会の方でもいいと思うんですけども、どなたか今の片山さんのご質問に対してのお答えができる方がいらっしゃったらお願いします。

○山本小学校長会長 小学校のほう、直接的に人と関わるとか地域に出て行って探検をす

るというふうなことが子どもの学びにとって本当に大きな意味を持っていたなということができなくなって、今本当に強く感じているところです。なかなかそれを全て肩代わりができるようなものがあるのかというと、なかなか難しいなというのが実感です。

ただ、その中でも学校としてもできるだけ保障したいということで、例えば地域の今まで探検で回っていたお店であるとか施設であるとかといったところに事前に連絡を取って、子どもたちが知りたいことに答えていただくために教員がその場所に出向いて、周りの様子もビデオに撮りながら知りたいことについて答えていただくというふうなことをしたり、それから高学年になるとオンラインでつないで直接インタビューをしたりというふうなことに挑戦をしているところもあります。

それから、今まで多くの子どもを一堂に集めてということで実施していたものについては、分けて、体育館を使って広い場所で1クラスずつではあるんだけど、直接お話を聞くというふうな、そういった工夫もしながら、今できることをできるだけ子どもたちには体験させてやりたいということで頑張ってきてきたところです。ただ、そうはいっても、それで十分かということ、なかなかそうとも言えないところがあるかなというふうなところは感じています。

○教育長 では、中学校のほうお願いします。

○三木中学校長会長 はい。実際にコロナの関係で体験ができないと。体験しているいろいろな体験があるわけですけども、体験ができないというのは現場にとっては本当に大きな痛手ではあります。ただ、先ほど山本校長先生も言われておりましたが、そういった中で今年度はChromebookが入ったというのは、実は大変大きなことかなと。ありがたいと思っております。

もう先ほどからも出ておりますが、実際に直接お会いしてとか体験することができないんですけども、じゃあ何もできないのかではなくて、それでもつながりをオンラインを通してですが、持っていくことができるというのは、また別の意味で子どもたちは新鮮なものを感じたり、それから直接ではなかなか緊張したり、自分の思いや考えが言葉としてすぐ出なくて、画面を通してということになると少し緊張がほぐれるのか、いろいろな本音の部分で子どもたちもやり取りできる、心を開きながらやっていけるという意味では、別の意味での効果はあるのかなとは思いますが、やはり生の体験ができないというのは実際大きいなというふうに、つくづくこの2年を通して実感をしているところです。

○片山教育委員 ありがとうございます。いろいろなことを工夫していただいて、本当に子どもは生き生き通えているし、そのできない、なかなか生で体験できないことも、本当にいろいろな活用のもを通して様々な力を育んでいただいているということを実感しております。ありがとうございます。

○教育長 もし事務局のほうで何か付け加えること、これは本当にずっと教育委員会でいろいろ考えてきたことではあるんですが、ありますか。

○事務局 指導課です。

先ほど校長先生方のお話にもありましたが、工夫しながらやってできたことということで、今年度Chromebookが入って外部の方と話をする機会が持てた。それも身近な人というだけではなくて、普通だったらなかなか会えない人と画面を通してだったら会えたよねということは経験できたのではないかなと思っています。あと、校内でお店を開くだとか学校独自の工夫を重ねられたんではないかなと思っています。

ただ、課題として、実際の体験ができてない。具体的に言うと、汗を流すだとか、それから疲れた後にお店の人からお疲れさんだったねというようなこと、そういったことはできていないということを実感しております。ただ、今後状況が変われば、そういったこともできるので、そういった視点を常に持って教育課程も考えていかなければいけないのではないかなと考えております。また、場合によれば、家庭へもそういった情報発信をする中で、ご協力を求めていく必要もあるかなと考えているところです。

以上です。

○教育長 では、石井委員、お願いします。

○石井教育委員 ご説明ありがとうございます。まず初めに、新しい教育大綱をつくっていただいて1年近くがたつ中で、この目指す姿というのが今の時代に本当にマッチしていて、良い目指す姿の目標設定がされているのではないかというふうに改めて感じました。特にこのコロナ禍の中で今生きている大人自体も、この活用力、表現力、向上心、社会性、人権尊重の精神というのは今大人が求められているそのものでありますし、今後激しく変化していった複雑で不透明で分からない、こういう社会にやはりこの力が必要なんだということを改めて実感しました。

その中で、教育長からご説明いただいた、いろんな数値の部分で改善傾向にあるという中で、子どもたちは懸命にこのコロナ禍の中でも頑張っているんだ、そしてそれを校長先生方そして先生方をはじめ、皆さんが本当に具体的に今ご紹介いただいたようなお話の中

で支えていただいているんだということを改めて感じることができました。本当にありがとうございます。

その中で私が感じたことでありますけれども、これだけ教育の中身というか、求められてきているものが時代の中で変わってきていることを私は家庭の人間ですけれども、家庭がどこまで理解できているかなというところを感じております。なので、先ほどご説明いただいたような取組がどういう意図でされているかということも家庭のほうでもし理解ができていたら、例えば夕食の時間でそういう目的に沿った家族の会話が少しでもできたらいいとか、あるいはもうちょっと違う観点でいうと、例えば成績表って今までのとか点数で出てくる成績表と今の成績表って何か違うなというのは感じるんですけども、そこがどういう観点で変わったんですよとかということも、簡単なところでいうと、そういうところも含めて、家庭がより深くこの新しい考え方を理解することが子どもの成長によりつながる可能性もあるのではないかというふうに感じています。

それから、2点目が、今この求められる力というのがすごく幅広くなって、特に表現力とか社会性とか、そういう部分も際立つようになったことで、逆に取り残される児童とか生徒というのが目立って際立つようなことになっている可能性はないのかなというふうに感じました。なので、子どもたちの成長というのは人それぞれで、成長の段階に違いがある中で、そういった生徒たちのケアといいますか、そういうのも非常に大事になってくるのではないかなというふうに感じました。

3つ目ですけれども、それに伴って先生方も大変お忙しくなるという中で、先生方の業務をICT等を含めて、もっと効率的に進めることで、今やろうとされていることの時間を確保する何かいい学校でやられている仕組みが共有されたりとか、教育委員会からの何かそういう支えがあって、そういうことが広まって、より充実した教育につながってほしいかなというふうに感じました。

以上です。

○教育長 石井委員からの家庭の教育力といいますか、そこに働きかける学校の方法のようなお尋ねだったんじゃないかと思うんですが、それが1点、それから力を本当につけていくということは大切なんだけれども、それと逆に取り残されている子どももいるのではないかと、そういう心配に対する何かお答えがあれば、そして働き方改革にどう結びつけていくかというあたり、3つお尋ねがあったんですが、三木校長先生、どうでしょうか。

○三木中学校長会長 まず、学校の取組の意図する部分であるとか、そういったところは

保護者の方々、地域の方々も含めてかなとは思っていますが、しっかりと理解していただくということは本当に大切なことかなというふうに思っております。

まず、岡山市はありがたいことに地域協働学校がかなり進んでおりますので、地域に対して学校で今どんなことが起こっているのかとか、どういった課題があるのか、またどういったことをやろうとしているのか、そういったことを地域に発信する場みたいなものが恵まれているかなというふうに思っています。これをいかに活用するかということは、すごく大事なかなというふうに思っております。それから、そのことは地域から家庭にもつながったり、家庭と地域とのつながりというのはもちろんありますので、そういったところかなと。

それから、各保護者への直接の部分ですが、これはもう古くからありますが、学校だよりに何を発信していくのかというふうなこと、それからさらにはPTAだよりであるとか、それから学年通信、学級通信、こういったもの、それからホームページ、こういったものの活用というのは一見地味なのですが、私は効果があるのかなというふうに思っているところです。こういったもので、本当に学校がしっかりと思いを持って、それを分かりやすい言葉で伝えていき、また取組を紹介をしながら、今写真等もかなり入れていって、文章だけじゃなくて、映像的な部分からも、画面的な部分からもイメージを持っていただけるというようなこと、それからさらには我が子の成長や変化を保護者が実感してもらえることというのが大事なかなと思います。

その後押しとして、こういうふうにな変わってきていますよというふうなことは常に示していかないと、どうしても保護者は我が子に毎日直接接しておりますから、もううちの子はというふうな、そういったところがあるんですが、そこに客観的にこうですよ、こういうふうに頑張っていますよといったことを示していくことというのは、すごく大事なかなというふうに思っているところです。

それから、教員の働き方改革にICTの活用ということで、これもいろいろな学校で、もう既に取り組みされているのかなと思います。本校でも今コロナでいつ何が起こるか分からない状況です。Chromebookを全部家庭に持って帰ってということも大事なんですが、急な学級閉鎖等がもしも起こったときには、なかなかそういった対応が取り切れないような状況があります。そこで、今Chromebookを使うときのIDとかパスワード、これはChromebookでなくても携帯からでも見られるようなシステムがあるんですけども、その部分でいざ何か起こったときに、緊急的にはこのパスワードで入れば、ちゃんと学校からの指

示であったり発信が使えますよというふうなことで、これをしなかったら一軒一軒、電話をかけないといけないような状況が発生することもあります。

そういった部分で、ICTの活用というのは既に少しずつできているのかなど。さらには、いろいろなところで、いろいろなひらめきが出たときに、それを1校だけで止めておくのではなくて、学校間で共有していく、広げていくということが大事なかなど。そういった意味でも、校長会の役割というのは大きいかなというふうに思っているところです。

それから、いろいろな教育の中で求められている中で、取り残されていく生徒たちが出てくるんじゃないかなというふうな部分で、ここの部分でも先ほども最初に私少し一言言わせてもらいました個別の指導であったり、学習の個性化という言葉も使わせていただきましたけれども、全体的にこれだけの力というふうなことも、もちろん大事です。それからあともう一つは、この子にとってこれだけ頑張れたというのをどういうふうにそれを認めてあげられるのかというふうな部分で、そこからその子にとって少しでもさらに興味を持って、このことをやろうということがあれば、それは決して取り残されているじゃなくて、その子にとっての成長につながる部分かなというふうに思います。

そう考えますと、先ほど山本校長先生も言われた、子どもの実態を本当に見取っていくような教員の力といったものが大切になってくるのではないかなというように感じているところです。

○教育長 石井委員からは、家庭の教育力というか、家庭にどこまでその5つの力等のことを理解していただけるのか、そこをどういう取組が要るのかといったことでした。それから、いろんな取組が進んでいくと取り残される子どもがいるのではないかと、それに対する対策は、またICTによる働き方改革、これをどう進めていくかという3つのお尋ねがありました。今、中学校長会のほうが終わりましたので、小学校長会のほうお願いします。

○山本小学校長会長 ありがとうございます。まず1つ目、家庭の理解を進めていく必要があるというのは、本当に私も強く思います。特に小学校においては、学校と家庭が同じベクトルでしっかり子どもに向かい合うということは不可欠だなというふうに感じています。1つには、そのために岡山市として今この教育大綱をもとにした5つの力を育てるということについて、しっかりとアピールするということは、まずは大事なかなと思います。

そうしていただくことで、各学校においては、岡山市はこの方向に向かって進もうとしていますよということを前提にしながら、先ほどお話にも出てきましたが、具体的に保護

者の方と話す機会、私は以前であれば、今はコロナでできないPTA総会の場であるとか学校運営協議会の場を借りて、学校の目指す方向と岡山市の目指す方向を結びつけながら説明をするという、そういったことができていました。なかなか今はそれができないので、学校だよりの中で、地域の人も含めて、学校の取組がどのような意味があるのか、教育大綱また5つの力に向けてどのような意味を持たせているのかということを少し解説的にはなるんですけども、そういったことをお知らせしていくということは、とても大事なかなと思っています。

それから、今年ほとんどできていないんですけど、参観日であるとか懇談であるとかといった機会をうまく活用するというのも、実際に子どもの姿を目の前で見させていただきながらということができるので、そういった機会は、厳しい中ではあるんですけども、ぜひ持っていただけるといいかなというふうには思います。なかなか今はそういう意味でいうと、身動きがとりにくい状況の中で、でも家庭には方向性をお示しし協力を得るという、かなり難しいことを進めているのかなというふうには思っています。それでも保護者の方は子どもから聞いて、学校の取組についてのご理解をいただいたようなお返しをしていただけているというのがあります。きちんと意味を子どもたちにも伝えていくということは、まずは前提として大事なのかなと感じています。

それから、先ほど出ました学校運営協議会がありますので、地域の皆さんに向けても教育大綱の意味であるとか、それを学校としてどう考えて取り入れているのかということをしつかりと説明する場はあるかなというふうには思います。多くの学校で学校運営協議会の委員の方にも周知ということは取り組もうと今考えているところが多いと私のほうも理解をしています。保護者への周知という部分は、それに比べるとやや弱いという実態がありますので、これについても校長会としてはしっかりと保護者を巻き込んでいくことが大事だということは進めていきたいなと考えているところです。

それから、取り残される児童生徒、これについては、5つの力は幅が広いです。様々な子どもたちの側面を評価していくことになると思います。非常に難しいところはあるんですけども、その子の良さを評価していくということは、やりやすくなるかなと思っています。社会性であるとか人権尊重の精神であるとかといった、非常にこちらとしては大事にしたい、その部分をしっかりと捉えて評価をしていくというのは、一人一人の良さに向けては意味があるかなと思います。ただ、それを見逃さない教員の側の力、以前からの変化であるとか成長であるとかといったところを大事にしながら、温かく見守っていくと

いうふうなところは欠かせないところかなというふうにも思います。

一番最初に申しました人材育成、教師の力量向上といったところが、その肝になる部分かなと思っています。もう一方で、そういうことを求めていくと、どうしても教員一人一人の負担というのは大きくなりがちかなと思います。簡単には解決しないというふうに私も理解はしていますけれども、ただノウハウ、力量のある教員が何をどう見ているのかとか何を評価ができるのかとか、そういったことのノウハウについては、ICTの活用等も通しながら共有することで、力量向上と、そのことに向けての時間短縮、負担軽減というのは一定程度は進めていくことができるのかなとは思っています。

私のほうからは以上です。ありがとうございました。

○市長 すみません。途中抜けまして、申し訳ありませんでした。今の議論を聞かせていただき、私としては最初に中学校長会そして小学校長会がおっしゃったことに関連して少し議論をしてみたいと思うんですが、全く話が変わるんですけど、「生物はなぜ死ぬのか」という今ベストセラーになっている本を読まれた方いますか。読んでみましたら何が書いてあるかという、生物はなぜ死ぬか、それは当然子孫を残すために死ぬ。子孫って何なんだというところが重要なんですけど、だんだんと次の代に送っていく。それは一言で言うと、進化のためという整理なんです。

連続性でいくと、例えば恐竜は、隕石が落ちて食糧がなくなって、大きい動物が生きていけなくなった。だったら、小動物で少数でも生きていけるようになっていく。例えば、魚でいくと、魚の卵ってすぐ食べられてしまうから、たくさん卵を産んで、食べられない卵を幾つか確保していくみたいな形で、魚なら魚でも環境に合った魚がどんどん環境から受け入れられていくという。人間も20万年のこの世界の中で、そうなっていかなきゃいけない。したがって、そういう生物の進化ということを考えていくと、やはり多様性というのが非常に重要だと。新たな環境に対応できていく、そういう人物をつくっていく。

そういう面からいくと、この大綱というのは自らの個性を磨きとなくなっていますね。だから、そういう本を読んでいても、この大綱の文章を思い出して、個性を磨いていくというのは本当に意味のあることだなと。ただ、個性を磨くって一体何なんだろうと考えたときに、校長さん方の言葉がそこで耳に残ったんですけど、三木会長のほうから言われたのが探究心を育てていく、そういう中にいろいろな個性が出てくるのではないかという話もありました。山本会長の話の中で、何を評価していけばいいのかという議論がありますよね。それって特に個性を磨くというのは本当に何を評価していけばいいのか。最後良さ

を評価すると言われましたが、良さって何なんだと考えたときに、多分個人個人の価値観で良さというのも変わっていきますよね。

ジェネレーションギャップがあつて、山本会長の時代と今の若い先生の時代は、まだ小さな意味でのジェネレーションギャップがあると。先生と子どもの間にもジェネレーションギャップがあると。こういう中で我々は一体何を評価していくのか。それがこの5つであるというのは、そのとおりだろうとも思うんですけども、この評価基準みたいなものの中に、もっと定量的には把握できないような、何か個性を磨きという個性をどう我々が認めていくのか。どういう評価をしていくのか。温かく見守るという言葉もありましたけども、そういう校長さん方と子どもたちの間でも、多分2ジェネレーションぐらいは違ってきていると思います。

そういう中で、何を子どもたちに期待するというのも言い方が良くないですが、どんな多様性を、どんな個性を見ていくのか。それを評価基準として、どう考えていくのかみたいな話というのは、あってもいいのかなというようなことを考えたことがありまして、なかなか明快な解がないかもしれないですが、これは教育長とも話したことがないのですが、まず教育長はどうでしょうか。

○教育長 今の市長の言われたことのお答えになるかどうか分からないのですが、教育の原点は何かということと言われるのが特別支援教育とへき地教育だと言われるんですね。共通しているのは、非常に少人数で、一人一人にどう指導していくのか、一人一人どう育てていくのか、そういうのを考えていく教育なんです。まさにこの個性を磨くということに私は通じるのかなと。つまり個性を磨くということは、本当にこれは難しいことなんですけども、一人一人を大切に、こういう教育の原点につながることはないかなというところをお話を聞きながら思いました。そのときに、山本会長が言われましたけども、その育てる力というのをこれから若い教職員につけていかないといけない。これが教職員を育てることがますます大切になってくるんだろうなというのを改めて感じました。

○市長 大切にするという言葉も良い言葉ですよ。今の議論で何か感じること、ないしはコメントがございましたら、お願いできればと思うんですけども。

○山本小学校長会長 ありがとうございます。私は津島小学校の校長なんですけども、子どもたちの中には外国籍の子どもたちもたくさんいますし、留学してきた保護者の方と一緒に来ている子どもたちもいます。非常に多様性のある学校だと思っています。そして、先ほどのお話、良さといったときに、違いを認識しながらもお互いを尊重できると

いったようなことは、一人一人の良さをこれから伸ばしていくという意味でも非常に大事にしたいところだなというふうには思っています。ですから、個性というふうなことになったときに、それは自分の側にだけあるのではなくて、お互いの中でそれを個性として認めていくというふうなことがあって初めて人としての個性というふうな意味づけができると思いますので、一つ言われたように、多様性をどのように受け入れることができるかという視点が学校、我々にとっては必要かなと思っています。

もう一つは、先ほど探究心という言葉も出ましたけれども、どれだけ外に向かって自分の疑問であるとか願いであるとか、そういったことを外から見つけてくれるかどうか。これも一人一人の個性が伸びていく上では、非常に大事な基本的な資質ではないかなと思っています。より多くの広い世界に目を向けることができるかどうかというのが、もう一つその子の個性がその後伸びていくか、個性を個性として自分のものにできるかどうかといったところも、そういったところにはあるのかなというふうに思います。

今お話を聞きながら、改めて我々一人一人の教員が子どもに向けて何を、それって大事なことだなと言ってやれるかどうかということは、本当にその子のこれから個性を磨くといったときの個性をどのように規定していくかということが決まってくるから、少なくとも個性は教員が決めるのではないことは明らかかなと思います。もしかすると、教員の自分の経験の中だけの範疇では決まらないものを、ですから教員自体が多様性を認めるとか教員自体が広い視野を持とうとするというふうなところが前提としては必要なんだろうなと思います。

ひっくり返して言うと、学校として何ができるかという、そういった教員を育てていくということと、もう一つはそういったことに目を向けた子どもたちがそれに向けて取り組んでいく、調べていく、そういったことを保障できる場がどれだけ確保できるかというところが問われてくるのではないかなとも思います。私の思いのたけを述べさせていただきました。ありがとうございました。

○三木中学校長会長 難し過ぎてよく分からないのですが、ただ市長さんのお話を聞いていて私の中で浮かんだ言葉は、人間の尊厳という言葉です。

あと、個性を磨くというのは、その本人の行動といいますか、動きという文章構成になるのかなとは思いますが、私は案外本人じゃなくて、今評価の話とかありましたけれども、周りがどう認めるという言葉が適切なのかどうか分かりませんが、磨けるようにしていくということも大事なかなと。つまり一人の子どもがいた場合、その子だけが

頑張るのではなく、その周りとの人とのつながりといいますか、社会構成的なもの、そういったものがどうあるのかという中で個性は磨かれていくのかなと。私が多分頭の中でぼんやりと浮かんだ人間の尊厳というのは、そういうことなのかなと。全く抽象的ですが、今日来させていただいてお話をいただいて、これは私の今後の課題になってくるかなというふうな、そういった実感です。

○市長 ありがとうございます。

何かご意見があれば。

○石井教育委員 今お話をお伺いして、私も今軽率にこうだというのは言えるほど簡単なテーマではないんですけども、思ったのは個性と反対になるもので、この文脈の中で考えられるのは、今まで日本社会でつくってきた、協調性という名のすごく重い同調圧力みたいな、そういうものって結構あるなと思って、それが個性を何か伸ばすのに邪魔をしているケースというのもあるんじゃないかなというふうに思ってます。それと、社会自体が個があって社会が成り立つのか、社会があって個があるのかという、そういう両方の視点で改めて個というものを考えてみたいなというふうに感じました。

以上です。

○市長 片山さん、何かありますか。

○片山教育委員 失礼します。今お話を伺っていて本当に難しいテーマで、私は何もいいアイデアというか、思い浮かばない部分があるんですけども、選択と挑戦を繰り返すことができるというところで、さっきの探究心というところからすると、個自身が自分が何を知りたいかとか、どんなことを自分が興味を持っているかというところに、その子の個性があるのかなというふうに感じました。

ですので、そういった子どものいろいろな、先ほど校長先生がおっしゃったような、外部から自分の興味関心というものをちゃんと情報としてキャッチしてこれるような、そういったものをお互いに持っていることというふうなことをおっしゃったんですけども、個として自分が持てる興味関心や意見や、そういった自分の中から湧き起こることという事柄が何か周りから認められることとか、自分が探究したいことを周りとは協働しながら発見していけることとか、そんなことが学校の中で体験していけることというのが個の育ちとか、それから社会の中で個が活かされていくという、自分のよさを知っていくことにもつながっていくのかななんて思いました。

以上です。

○市長 教育委員会のほうで何かお話があれば。

○事務局 失礼します。学校教育部長です。

個性を磨くという部分に直結するかどうかというのは分かりませんが、私が4年前ぐらいに小学校へ行かせていただいたときに、小学生を見て非常に強く感じたことがあるんです。それは、例えば今年どういうことを子どもたちが頑張りたいのか、1年の目標を書くとか学年の目標を書くとか学期の目標を書くというときに、マイナスの部分プラスにどう変えていこうとするのかというような目標が圧倒的に多かったんですね。

先ほど石井委員が言われた部分に重なるんですけれども、どこか学校教育が邪魔をしている部分がやはりあるのかなと。あなたはここができてないから、ここができるようになったほうがいいんだよとか、英語が苦手なんだから英語ができるようにならないといけないよ、単語を覚えましょうね。算数苦手なんだから九九が言えるようになりましょうね。何か日頃の関わりの中で、なぜかマイナスの部分から入っていつている傾向が学校の中に枠組みの中にあるのかなというようなことを思いました。ですから、そのときに職員とやっていこうとしたのは、今までの学校の中の価値観を少しは取っ払って、自分が好きなことを一生懸命もっと伸ばしたいとか頑張りたいんだというような目標がどんどん出てくる、これのほうがいいんじゃないかと。これが向上心なんじゃないかなというようなことを言った時期がありました。

これは、ひょっとしたら国民性かも分かりませんが、何かみんな一律にと同じ型の中でとか枠の中でというのが日本の教育のどこかマイナスの部分にあるんだとしたら、そこを取っ払って、自分の良いところをどんどん伸ばせばいい。自分が好きなことをどんどんやればいい。どんどん調べればいい。高めていけばいい。これも個性を伸ばす一つのきっかけになるのではないかなということを強く感じたので、お話をさせていただきました。

以上です。

○市長 ありがとうございます、貴重なご意見を。

この個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども、これは非常に良い言葉ですよ。これを今度は定性的にならないように、それを定量的な基準をつくってやってみましょうということで、この5つの項目、そしてそれぞれ定量性を選んだ指標をつくっていった。これはもうこのとおりで、皆さん方につくっていただいたものだと思うんですけれども、それがあまりに走り過ぎると、教育長のお話でおっしゃった、一人一人を大切にしようということが先生方から万が一でも抜けてしまうとまずいということが先ほどの

校長さん方からのお話で、この5つの項目を進めていくところのその前の大前提の議論が抜けてしまうと、先生方の子どもたちに対する対応というのが少し変わってくるのではないかと、それを校長会としてどう扱っていくのか。

確かに九九ができなければ九九ぐらいは教えてやらなきゃとか、それもあるのだと思いますが、この子は本当にすごい音楽ができるじゃないかと、これを伸ばしてやるというのもあっていいな。これは何か矛盾はしますが、何かそういう一人一人を大切にするという心というものが、先生方は当然あるというのであれば、当たり前かもしれないですけどね。あまりこの5つの力を育てるということだけに特化しちゃうと何かが違ってくるような気がしたので。どうでしょうか。

○教育長 ありがとうございます。一人一人に本当に目を向けるということと、市長さんが言われたことの本意が分かってないのかもしれないのですが、この5つの力は実は一つ一つ分けられるものではなくて、全部有機的に私は結合しているものだろうと思うんですね。あえて教育を教えることと育てることというふうに2つに分けたとしたら、例えば最初の活用力、表現力は教えること、指導とか学力、それから社会性と人権尊重の精神は育てることになるのかなと。向上心は、これはどちらにも必要な、もう全体を網羅するような大切なことだろうとは思いますが、トータルでこういうのを見ていく、一人の子どもを見つめたときにトータルで見ていくということは非常に必要なんだろうかなというのを思いました。

ただ、最初に石井委員が市長さんが出られてすぐに言われたんですが、この目標、これはもう現代の世情とか、これから日本が向かっていく、世界が向かっていくと言ってもいいかもしれませんが、将来像を見たときに、非常にすばらしい目標であると。こういう子どもを育てていくんだというのを、これはすばらしいんだということを言われたんですが、私も本当にそう思います。

以上です。

○市長 随分議論して、こうなったわけですから、私もそう思っているんですけども、先生方が当然だということで、もう心の中に持っておられれば、もちろんよいのですが、こういう5つの表現の中に一人一人を真心を持って育てていこうという先生の気持ちみたいなものが必ずしも表れていない。そのところに自らの個性を磨きというところの中から、言葉から、そういった先生の子どもに対する慈しみというかな、そして先ほど触れた少々九九ができなくてもいいじゃないかみたいなどころもあっていいかもしれないし、

そういうものがこういう中に入っているのもいいんじゃないかなというような気持ちなんですけどね。

この大綱をどうこうしようということは全く考えているわけではなくて、校長会として先生方とこれから接するときの話、5つの項目の中に様々な要素が入っていることはそのとおりになんだろうと思うんですけど、基本の基本というものをぜひ子どもたちに発揮してやっていただければなというように思います。

問題提起だけでしたが、そのほか何かございますでしょうか。

植山さん、何かありますか。

○事務局 失礼します。植山です。

今のお話をずっと聞かせていただいている、私はこの大綱ができてからこの1年間、ずっといろいろな校長先生といろいろなお話をしてきました。そのときに、この5つの力というのは学校でどういうふうに捉えたらいいのかと随分悩みながら、でもこういうふうに捉えたらいいんだという校長先生のいろいろな考え方がたくさん聞けて、この5つの力で本当によかったなと思っていて、じゃあこの4つの指標になったときに、どういうふうに考えたらいいかなと校長先生からご相談を受けるときに、2つ目、3つ目、4つ目のこの指標が全て子どもたちの考えていること、感じていることを測るものになっています。

数値で出てきたものが、全て子どもがこう感じた、子どもがこういうふうに考えたというものが2つ目、3つ目、4つ目の指標になっていて、子どもたちが実感できるようにするということが、今の個性のところのお話を聞かせていただいていると子どもたちが自分で思えるように子どもを育てていくことだし、やれている自分とか、やれているのは何でかなと考えたりとか、そういうことが個性を磨きというところにつながっていくのかなと考えていました。

以上です。

○市長 さすがによく頭が整理されていますね。ありがとうございました。

そのほか何か、石井さん、また片山さん、よろしいでしょうか。

それでは今日のご意見を踏まえて、また目指す子どもの育成に向けて、さらなる取組を進めていただきたいと思います。

今後もこの会議を教育長、教育委員の皆さんと情報を共有し、活発な議論を通じて十分に意思疎通を図っていく場にしたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

それでは、事務局に進行を戻します。

○司会 ありがとうございました。

次回の会議につきましては、改めて連絡させていただきます。

以上で令和3年度第3回総合教育会議を閉会します。お疲れさまでした。

午後4時52分 閉会